

『星に導かれて』 マタイ福音書2章1～12節 井上隆晶牧師

①【クリスマスは旅でいっぱい】

イエス様が生まれた時、天に特別な星が現れました。それを見つけた東方(ペルシャの方角)の占星術の学者たちは、救い主が生まれたことを知って遠くから旅をしてやってきました。彼らは星占いだけでなく薬学、自然科学、天文学の知識がある科学者であって皆さんが知っているレオナルド・ダ・ビンチのような人だと思ってください。クリスマスは旅物語でいっぱいです。ヨセフとマリアは住民登録をするためベツレヘムに旅をし、占星術の学者たちも星に導かれて長い旅をし、羊飼いたちは野原を旅します。このことは何を教えているのでしょうか。私たちの人生は旅であることを教えているのです。私は長野県の伊那市出身ですが、大学に入るために大阪にやってきて、パートナーと出会い結婚し、将来の仕事を見つけ、住み着きました。ここにもいろんな地方から出てきた人たちがいます。旅の目的は何でしょう。勉学を求め、仕事を求め、自分を愛してくれる人を求め、自分の居場所を求めて人は動き、移動します。その目的は、ただ一つ、幸せになることです。幸せとは何か?それは心が平安であるということです。つまり不安からの救いを求めての旅だということができるでしょう。クリスマスというのは救いを求めて動く時なのです。

②【真の王キリストに仕える人は自由と喜びがある】

でも救い主が生まれても、すべての人が喜んだ訳ではありません。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおられますか」(2:2)という占星術の学者の言葉を聞いて、ヘロデ王もエルサレムの人々も「不安を抱いた」とあります。なぜ不安になるのでしょうか。本物が現れ、自分の偽りが暴かれるのが怖かったからです。自分が変わる勇気がなかったからです。ヘロデは王位を奪われると恐れ、人々はヘロデを恐れました。ヘロデはイエス様を殺そうとし、祭司長や聖書学者や町の人たちは、ヘロデを恐れてイエス様を礼拝に行きませんでした。一方、占星術の学者たちは違いました。彼らがイエス様に会うために出かけると、東方で見た星が再び現れ、先立って進み、幼子のいる場所の上に止まりました。この星は不思議な星です。これは神からの導きの星でした。彼らは「その星を見て喜びにあふれた」(10)とあります。彼らはイエス様を拝み、宝の箱を開けて黄金、乳香、没薬を献げました。この三つの献げ物は、キリストは誰なのかを教えています。黄金は王に献げるものであり、乳香は祈りの時に神に献げるものであり、没薬は死者に献げるものです。つまりイエス様は王であり、神であり、死ぬために来た方であることを教えています。占星術の学者は、イエス様を自分の王として、自分の神として、自分の罪の為に死んでくださる方として受け入れたのです。彼

らは「ヘロデのところへ帰るな」という夢のお告げに従い、ヘロデの言葉を無視し、自分たちの国に帰って行きました。偽りの王に仕える者は、恐れと不安に支配されますが、真の王（神）に仕える人は自由と喜びと確信があるのです。

③ 【私の旅】

●今 TV で「旧統一協会」の問題をやっていますが、私は大学の時、統一協会に入ってしまった。道であるアンケート調査に答えると、その人は私を大学の原理研究会（統一協会の教えを学ぶサークル）に連れて行きました。なぜついに行ったのかというと、私の心の中に「満たされない心」があったからです。何をしても、何をしても満足できない自分が嫌いでした。子供の時のような心に帰りたいかったです。そこから琵琶湖修練所に連れていかれ、半月ほどそこに監禁されました。そこで朝から晩まで講義を受けマインドコントロールをされてしまいました。ここで教えられたのはこんなことです。「人間が罪を犯したり、この世に不幸や病や戦争があるのは人間が先祖の罪を受け継いでいるからだ。あなたの血の中には悪魔の血が半分入っている。その血をきれいしなければあなたは救われない。真理を知った以上、あなたはこの教えに従わなければならない。あなたは一族から選ばれたのだ。あなたが失敗したら先祖はあなたを呪いあなたは地獄に落ちる。神様はあなたのために95%がんばった。あなたは残りの5%を達成しなければならない。」この5%のノルマが多額の献金や勧誘です。私は心が苦しくなりました。やがて合同結婚式の話が出た時、私には結婚しようと思っている人がいましたから受け入れられませんでした。そこでここを脱走しようと思ひ、朝の4時にそと修練所を抜け出し、線路の上を歩いて始発に乗って大阪に帰ってきました。「私は神様を裏切った、私は使命に失敗したから地獄に落ちる」と思ひ怖くなりアパートに隠れていましたが、大学の友人が心配して訪ねてくれ、私をキリスト教会へ連れて行ってくれました。そこの牧師さんから「聖書を一度読んでごらんさい。それからまた、話しましょう。」と言われ、ルカの福音書を読み始めました。イエス様の十字架の個所に来た時、自分を殺す者たちに対してイエス様は「父よ彼らをお赦し下さい。何をしているのかわからないのです。」という祈りをされました。「こんな人がいるんだ。統一協会に聞いていたキリストの姿とぜんぜん違ふ！この人の愛は本物だ！この人のようになりたい」と思ひましたのです。すると目からウロコが落ち、恐れが消え、イエス様を素直に信じていたのです。神様の愛は100%であり、神様は私の罪を赦して下さるお方だったのです。私は付き合っている女性と共に洗礼を受けました。そして今、教会の牧師をしており、彼女は私の妻になっています。

●淀川キリスト教病院のホスピス長であった柏木哲夫先生が興味深いことを書いています。「安」という文字がついた「安全」「安心」「平安」という三つの日本語があります。「安全」は、「この飛行機安全ですか」「この薬、安全です」というよ

うに物質に対する言葉で、対象が体です。「安心」というのは、文字通り心が安らかであることです。「家族がいて安心」、「財産があるから安心」というように横から来る安らかさです。しかし「平安」というのは魂であって、それは縦から来るというのです。「私は三つとも大切だと思っているんです。…しかし安全と安心だけでは不十分で、最終的には…神様からいただく平安が一番重要だと思います。…多くの人たちは安全が保障され、安心が保障されたらそれでいいように思っている。ところが末期の患者さんをたくさん看ている私から言わせると、最後の方になってくると、平安がなかったら本当に大変ですよといいたい。」末期の患者さんは皆「治る希望」を持つそうです。ところがだんだん弱ってきてもう残り時間が少ないとなると、治る希望から「出来る限り長く生きたい」という希望に代わり、さらに弱るとこの世の希望は一切なくなり、永遠の世界への希望しか残っていないと言うのです。

今年、頂いたクリスマスカードに「2022年は天災、人災、数々の災害に見舞われ、人間の力では何事も解決できない事を、ひしひしと思わされた年でした。」とありました。この世界も疫病も人間はコントロールできませんでした。私たちの人生は海に似ています。海は絶え間なく動き、高い波と、低い波があって、決して静まることはありません。人はこの世やこの世の人に完全な休息や平安を求めてさまよいますが、それを得られないのは、この世にはそれが無いからです。人も物も常に変わります。完全な平安は上から来るのです。本物の愛だけが人を自由にし、その人を救ってくれます。誰に愛されるか？どんなものに導かれるかが、人の生涯を決定するのです。どうぞクリスマスの時、横からの安全や安心ではなく、上から来る平安を求めて頂きたいと思います。そして本物の愛に出会っていただきたいと思います。